

令和7年



多気営農センターより



今月は、稲刈り、果樹の仕上げ摘果、また秋冬野菜の播種等の時期になってきます。気温が高く、日差しも強い炎天下での作業になるので、体調の管理にも気を配り無理の無いよう作業に努めてください。

水稻

今年も6月から平均気温が高く推移している為、稲の生育が昨年同様に早く、7月前半には出穂している圃場が見られました。

今年も、斑点米カメムシの発生は1か月予報で平年比『多い』となっております。水稻のカメムシ防除は、出穂期～穂揃い期～乳熟期にかけて重点防除時期となります。

防除適期は、①穂揃い期に1回目を行ってから、②一週間後に2回目を行い、③発生状況に応じて3回目の防除を検討してください。

落水は土壌条件にもよりますが、今後も高温が続く予想のためできるだけ遅らせ登熟障害を受けないように気をつけてください。落水が早いと未熟粒・胴割粒の発生を助長します。湿田を除き一般水田では、収穫7日前が落水時期の目安です。落水後も田面が乾くようなら走水をおこない登熟を促しましょう。



収穫時期の目安

コシヒカリの場合、4月下旬田植えで出穂期後33～35日で、穂の基部に緑色もみが3～4粒程度残る頃が、収穫適期です。

例年より早くなる場所もあると思われますので刈り遅れには注意しましょう。



収穫・乾燥調整の留意点

胴割米防止 ⇒ 早期落水・刈り遅れ・高温急速乾燥は厳禁！

やけ米防止 ⇒ 収穫後4時間以内に乾燥機へ投入！！

適正水分 ⇒ 乾燥調整は14.5～15.0%！！

早刈り厳禁 ⇒ 青米・小米が多くなり等級の低下・収量が減少します！！！！



・令和7年産米出荷（地場）について、出荷契約書の提出をいただいている方に、令和7年産米概算金が決定しだい、米概算金のお知らせ文書と令和7年産米集荷案内文書を配布させていただきます。

果樹

今年は果樹カメムシ類の発生は平年より『やや少』となっております。しかしながら、収穫期が近づくにつれて、増加していくことが予想されます。吸汁被害により品質低下の原因となります。必要に応じ基幹防除に加え、追加防除を実施して下さい。過去に飛来が多かった圃場は特に注意していただき、近隣圃場と散布日を合わせるなど、広域で一斉防除すると効果が高くなります。

かき



8月中旬防除

うどんこ病・炭疽病等	ベルコート水和剤	1, 500倍
カメムシ・アザミウマ・カイガラムシ	モスピラン顆粒水溶剤	3, 000倍

みかん



8月中下旬（果実肥大期）

黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍
ミカンハダニ類	コロマイト水和剤	2, 000倍

台風対策(露地野菜編)

これからの時期は台風が襲来しやすくなります。事前に下記の対策をしておくことで被害を軽減できますので、参考にしてください。

- 冠水や浸水の恐れがある圃場は、排水溝の雑草や土砂等を取除き水落部分を作っておく。
 - 播種直後のものやキャベツ等の苗床は、寒冷紗をべたがけして風で飛ばされないよう固定する。
 - 幼苗期のものは、土寄せ・土入れを行い株の揺れを防ぐ。
 - 果菜類は、支柱の補強をし、収穫が済んだ側枝や不要な枝や蔓を取除く。または、畝の上に倒し防風網や寒冷紗等で押さえ台風通過後に元に戻す。
- ☆ 台風通過後は、速やかに圃場排水を行い、ベタがけ資材等を除去し付着した泥等は洗い流し薬剤防除をする。
- ☆ 株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、全体を軽く中耕し土壌の通気性を良くする。
- ☆ 豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の肥料を追肥し、草勢の回復を図る為に薄めの液肥を葉面散布する。



多気営農センターの営業時間について

9月末まで 平 日：午前8時45分～午後6時00分まで

8月23日（土）～9月15日（月）

土日祝日：午前8時45分～正午まで

※お間違えの無いようによろしくをお願いします。



肥料・農薬など栽培に関するお問い合わせは



多気営農センター39-6170 または各営農指導員携帯へご相談ください。